

第3回看護研究会

(中堅看護師教育研修会)

令和2年10月1日(木)

ZoomによるWeb開催

(受講会場：岡山国際交流センター)

□ 講演

『患者・家族と共に歩むー意思決定を支える看護師の役割ー』

講師 北海道医療大学 名誉教授 石垣 靖子 先生

□ 講演

『後輩指導に活かすコーチング』

講師 有限会社 AE メディカル

代表取締役 野津 浩嗣 氏

一般社団法人 岡山県病院協会

(注：類似した感想はまとめています。)

第3回看護研究会（中堅看護師教育研修会）アンケート集計 （令和2年10月1日）

（ 38病院 111名出席・ 61名 回答 ）

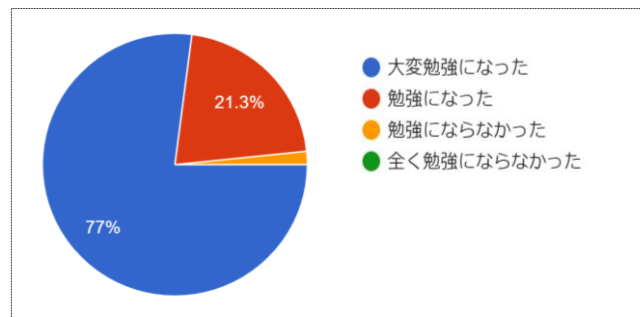
1. 講演『患者・家族と共に歩む－意思決定を支える看護師の役割－』を聞いて。

（講師：北海道医療大学 名誉教授 石垣靖子 先生）

A.

a. 大変勉強になった	47名
b. 勉強になった	13名
c. 勉強にならなかった	1名
d. 全く勉強にならなかった	0名

未記入0名



B. 感想や、学べたこと・これから生かせると思ったことがあればご記入下さい。

- ・ 今までは生物学的ないのちに重点を置いていたが、物語られるいのちを支えることが看護の本質であると思った
- ・ 先生の言葉どれもが染み入り、私も看護師と思った
- ・ 家族の関わり方を考えさせられた
- ・ 意思決定支援に看護師の役割は大きい
- ・ Covid-19を絡めた内容だったので為になった
- ・ 患者さん本人を人としてみる。分かってはいても、なかなかできていないこともあるなと感じた
- ・ 患者の1つ1つの言葉を聞き逃さず、人生観を捉えてケアをしていきたい
- ・ 患者一人ひとり考え方違い、それによって関わりを変えて行く大切さを学んだ
- ・ 「その人の人生はその人が生きる」を大切にやっっていこうと思う
- ・ インフォームドコンセントについて再認識できた。患者にとっての最善とはなにか、常に考えながら患者に寄り添えるようになりたいと思った
- ・ インフォームドコンセントの意味を間違えていた。患者と一緒に考え悩み、その方の最善の物語のエンディングに寄り添えるように看護を続けて行きたいと思う
- ・ かけがえのない存在として尊重し、その人にとっての最善を共に考え寄り添うということがとても印象に残り、大切にしていきたいと思う
- ・ インフォームドコンセントについて、患者主体で話を進めていく必要があることを再度確認することができた。季語を使って説明するとニュアンスが柔らかくなることも知れた
- ・ その患者さんにとって、ただ病気を治すことだけが最前の策ではないのだなと思った
- ・ 患者さんと「共に歩む」、NSの「感じる力」など、今一度原点に戻って生かして行きたい
- ・ ターミナルケアでの患者や家族の対応
- ・ 改めてICの意味を考えることができた
- ・ ICが患者主体であることを忘れてはいけないと感じた
- ・ ICの意味、再確認させられた。今後気をつけたいと思った。患者と同じ方向を向いて関わっていこうと思った

- ・ 本来の IC の意味をもう一度原点に立ち返って考えるきっかけになった。対話を重ねていくということの大切さ、患者の立場に立つという意味、今後さらに意識して自分の看護に取り入れていきたいと思う
- ・ IC の意味、意思決定を支えるためには意思確認が重要である。相手を分かりたいと関心を向けて、確かめようとする感性や能力が求められている
- ・ 看護をする上で患者さんの人生の過程や価値観などを大切に関わっていききたいと思う
- ・ IC=患者から得るもの、医師が主役ではない。この研修を医師にも参加してもらい聴いてもらいたいと思った。これから自分自身もできるところから実施していきたい。大変お忙しい中、貴重な時間をありがとうございました
- ・ しっかり患者家族と向き合って、対話を通して最善のケアを提供できるように実践していきたい
- ・ これまでとは少し違った視点で患者や家族に寄り添うことができると思う
- ・ 相手を分かろうとする姿勢、物語られるいのち、表現が的確で腑に落ちた
- ・ 患者さんの病態だけでなく、個別性を考慮し患者主体で意思決定をサポートしていきたいと思った
- ・ 意思決定のポイントはコミュニケーションを繰り返すこと
- ・ 患者の希望を聞く時に「どうしてそう思うのか」まで踏み込んで聞く
- ・ 忘れていた看護感、目標を思い出すことができた
- ・ 私達 Ns が踏みとどまって、患者背景を捉え、今後を一緒に考えていくこと
- ・ Dr と患者・家族との橋渡しの役目が自分の大切な仕事だと思った
- ・ 看護師の踏みとどまり、立ち止まる勇気、という言葉、これからのケアに役立つ
- ・ その人の人生はその人しか生きられない。生命の二重性の意味を学び、物語れる視点で患者様の意思を確認し尊重しながら関わっていこうと思う
- ・ どのような場面でも患者さんが主体でないといけないということを改めて感じた。一緒に考え悩む、対話していくことを大切にしたいと思う
- ・ 考えること・工夫することの大切さ、一つの答えではなくいろいろな答えを探す、人間を看ること
- ・ 対話内容の記録を大切にし、多職種での情報を共有していく。相手の人生に触れてみる。日常のさりげない会話から患者の意思を確認してみる
- ・ 患者の身近にいる立場の看護師として、思いをくみ取り、代弁者として踏みとどまり立ち止まることを念頭に看護していきたいと思う
- ・ 物語られる命を尊重して、患者の話を聞いていきたいと思った
- ・ 患者だけでなく、家族だけでなく、お互いが情報共有しながら意思決定をすることが大切である。喉頭 Ca の ope の例を挙げて説明されていたことで、よく理解できた
- ・ 神経難病の Pt へ関わることも多く、意思決定支援は必須となってくる。今回はとても良い勉強の機会となった

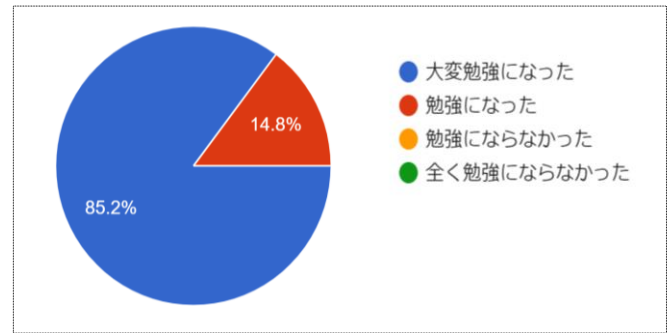
2. 講演『後輩指導に活かすコーチング』を聞いて。

(講師：有限会社AEメディカル 代表取締役 野津浩嗣氏)

A.

a. 大変勉強になった	52名
b. 勉強になった	9名
c. 勉強にならなかった	0名
d. 全く勉強にならなかった	0名

未記入0名



B. 感想や、学べたこと・これから生かせると思ったことがあればご記入下さい。

- ・ すぐに実践できることが多かった
- ・ 明日から使える内容だった
- ・ 具体的な指導スキルが分かりやすく、明日から実践していこうと思う
- ・ 後輩育成（学生も）に私なりに力を注いでいるが、明日から先生の教えを実践したい
- ・ 事実承認はすぐにでも使えると思った
- ・ 事実承認、Iメッセージを使っていきたいと思う
- ・ 後輩育成に役立つ褒め方、叱り方が学べた
- ・ 後輩の叱り方が難しく悩んでいたのも、とても勉強になった
- ・ 後輩指導は日々悩む場面が多く、この研修を機に相手への伝え方を変えていく
- ・ 言葉の難しさと、発する言葉で相手を傷つける難しさを学んだ
- ・ 実際、Whyで問い詰めていることがあるので、気をつけていこうと思った
- ・ 質問の仕方や承認について今日からでも意識して実践しようと思う
- ・ 後輩を褒めて育てるということは意識してやって来たつもりだったが、Youメッセージばかりになっていたと気づいた。“あなたの存在が私にこんなにも大きな影響を与えている”ということ伝えて行きたいと思った
- ・ 事実承認やIメッセージ、枕詞を用いて、相手のやる気を引き出すことを実践していきたい
- ・ 後輩育成について、指導方法や関わり方で相手に考えてもらうコーチング方法、ティーチング方法について勉強できた
- ・ 新人に教育する際にこちらの言い方ひとつで捉え方や伸び方も変わるのだなと思った
- ・ すべての内容がとても興味深く、今までで一番コーチングについて理解が深まった。枕詞+Iメッセージはすぐに取り入れていこうと思う
- ・ コーチングについては初めて学んだ。後輩や同僚への声かけ一つでも意識できることがたくさんあると思った
- ・ どうほめるか、声掛けを行うか
- ・ 意識して意図的に関わりたい
- ・ Iメッセージ、一呼吸置いて、枕詞や言葉を選ぶこと、生かしていきたい
- ・ 枕詞を使って話しかけたり、“なぜ”よりも出来事に焦点を当てて話すことを今後意識していきたいと思った
- ・ やる気を高め、目標達成を支えるためにコミュニケーションスキルを高めることと、わかっているけど実践できないことであり、常に言動を振り返ること
- ・ 後輩指導でとても悩んでいたが、Iメッセージや事後承認を用いて指導するようにしていく

- ・ 研修で学べたことが現場で1つでも実施でき、継続していけるように、自分の行動を振り返りながら今後活かしていきたいと考えている。貴重な時間をありがとうございました
- ・ 事実承認とIメッセージをしっかり活用したいと思う。即実践したいと思う
- ・ 後輩指導において、プロセスに目をむけ事実承認をするようにしていきたい
- ・ 事実承認の後にIメッセージを入れる、具体的ですぐに活用できる。数年前に野津先生の講義を受けたことがあるが、何度聞いても新しい発見があった
- ・ 指導にはティーチングとコーチングを使い分ける必要がある
- ・ 過去質問では「Why」を「What」「How」に転換すること、結果承認と事実承認を使い分けることの大切さをグループワークで体験できた
- ・ 対話、コミュニケーションを大切にしたい。Iメッセージも
- ・ YouメッセージとIメッセージの違いで、受け取る方の思いなど考えさせられた
- ・ ティーチングとコーチングの違いの捉えが明確になった。Iメッセージを活用したい。ちょうど悩んでいたのも、とても勉強になった
- ・ 過去質問 Whyは、What、Howに置き換える
- ・ よくないことを伝えるときは、よくない枕詞を使うということ
- ・ 成長や成果（プロセス）を指摘する事実承認を心掛けていきたいと思う
- ・ 相手に気づき考えてもらう声かけをし、Iメッセージを使ったほめ方ができるよう心がけたいと思う
- ・ 言い方一つでとらえ方、受け取り方が違うと改めて思った。事実承認+Iメッセージに早く慣れたいと思う
- ・ Youメッセージや結果承認で褒めることが多かった。気をつけようと思った
- ・ 声かけをする。あなたをいつも見ているよ、気に掛けているよと言葉に出して伝える。指導対象者が安心感を持って働けるように、認めてほしいところを承認する
- ・ なぜ、なんで、の質問をやめる。Iメッセージでほめる、叱る。感情を抑えて一旦落ち着く
- ・ Iメッセージ、事実承認、過去はWhyではなくHow+Whatに言い換えることを意識していきたい
- ・ 後輩に対する働きかけ方について、大変多くを学ぶことができた。大切なのは事実承認で、プロセスをほめることである
- ・ 伝え方で相手の態度が変わっていくのかなと思った。明日からでも実践できる内容だった
- ・ whyの使い方など参考になることがたくさんあった
- ・ 後輩に質問や指導などをする時には、どのように伝えるのが相手が受け止めやすいのか、十分考えて関わっていこうと思った

3. 今、悩んでいることは何ですか？ また、今回の研修で何かヒントになることがありましたか。

- ・ 新人指導・新人スタッフへの指導 (2) ・ 後輩や新人の指導や声掛けの仕方
- ・ 年上の他施設経験者の指導をどうしたらいいか
- ・ 自院での経験が長い人、中途採用の方の教育方法について悩んでいる
- ・ コビット対応における看護師の精神的な負担
- ・ 研修は二つとも今の現場にふさわしい内容だった。学びを活かしていきたい
- ・ 最近は新人が病欠をとってしまう。関わり方が難しいと感じる

- ・ 現在働いている部署が、自分より年上が多いためチームリーダーがやりにくかったが、今日コーチングで相手への質問や注意の仕方を学べ、活用できそうだった
- ・ 新人さんの上手な指導方法 ⇒ 枕詞+ I メッセージ
- ・ 新人教育がうまくできない。マニュアルができておらず、今の時代の子に見よう見まねでさせようとする管理職。私達の要望も聞いてくれない
- ・ 新人教育での個々に合った指導方法が本当にその個人に合っているのか。事実承認ができるよう自分を振り返っていきたくと思った
- ・ 後輩への注意には苦手意識があった。枕詞を使って、相手にも自分でも心の準備をできるようにしていきたい
- ・ 後輩の叱り方が難しく、悩んでいたのも、とても勉強になった
- ・ 叱ることが難しい。枕詞+Iメッセージのアドバイスから始めようと思った
- ・ 新人スタッフとの関わりについて。声かけの仕方を学ぶことができた
- ・ 管理業務について。後輩指導の際の声のかけ方など参考になった
- ・ 「意思決定支援」悩んでいる。自分の関わり、言葉がけひとつ、何が正解なのか日々模索している。「一緒に考え悩むこと」とてもヒントになった。明日からの看護に活かしていきたいと思う
- ・ 意思決定を支える上で医療者が主導になり、患者・家族と IC をしていることがある。そうならないように関わっていくためのヒントを得られた
- ・ 意思決定に対する関わり方等難しく、チームが一丸となれる環境となっていないため、伝達講習をして伝えていきたいと思った。後輩の離職や休業が増えているため、このスキルを活かしていきたい
- ・ 後輩指導の枕詞などとてもヒントになった
- ・ ACP がいろいろな学会で言われているが、臨床の医師が理解していない現状がある。医師へ ACP の内容を理解してもらえよう、いろいろな方面から説明をしているが、上手く伝わらない現状がある。研修を通して、自分自身が患者・家族が折り合えるところに同意していけるような関わりを、今以上にできるところから実施していきたいと改めて感じた
- ・ 悩みはない。ACP に関しては 1 つとして同じ事例はなく難しいが、講義を聞いて 1 人ひとりの物語を患者・家族が納得がいけるよう支えていきたい。そうすることで、自分の家族（親）や自分自身も納得のいく終末期を迎えることができそうだと考えた
- ・ 後輩や新人指導。ジェネレーションギャップという言葉で片付けたくない。理論に基づいて効果的に関わりたい
- ・ スタッフに対するコーチングや指導の仕方。倫理は悩みが付きにくい
- ・ 地域の小さい病院で、行き場のない患者さんが増え、家族の受け入れも十分でなく、長期にわたり入院生活が続いている。Dr は真剣に考えておらず、帰れないなら医療院があると考えていること
- ・ 患者・家族は都合の良い情報、分かりやすい情報のみを理解しやすい、ということが分かった
- ・ 注意の仕方について悩んでいたが、人に焦点を当てるのではなく起こった出来事・行動に焦点をあてるということ学んだので、今後生かしていきたいと思う
- ・ Dr に「自分とは倫理観が違う」と話し合いを拒まれたことがあったが、石垣先生の講演を聞き、患者さんのことを考えたケアを今後も提案していこうと思った

- ・ チームリーダーが育たないこと。“なぜ”は未来質問での使用が効果的
- ・ 病棟全体の仕事へのモチベーションが低い。コーチングが生かせると感じた
- ・ 石垣先生からヒントをいただいた。「看護の魅力」を折に触れて伝える必要性
- ・ 看護、介護業務に追われる

4. 今後勉強したいこと・希望する研修内容等、また希望する講師もあればご記入ください。

- ・ ACPについて
- ・ COVID-19に罹患した患者の看護
- ・ 意思決定について
- ・ 障害者に対するコーチング方法知りたい
- ・ 児童虐待防止に関連して妊婦の関り、DV、性虐待について。中島幸子さん
- ・ アンガーマネジメント、セル看護提供方式
- ・ 医療安全に関することが興味がある
- ・ 病棟管理について
- ・ 退院支援について

5-①. 今回の Web 開催はいかがでしたか？ 参加された感想やご意見を、ぜひお聞かせ下さい。

- ・ ズームは初心者で使いづらいこともあったが、リモートならではの気軽な参加や遠くにいる方との意見交換ができよかった
- ・ 私の音声ペアの方に行かなくてご迷惑をおかけしたが、筆記でやりそれも良かった
- ・ 他の人の接続が上手くいかず、映像が出たり、音声聞こえたり集中できなかったりが、残念だった
- ・ 私は病院で、病院が Zoom を設定してくれて困らなかったが、音声聞き取りにくかったり、講師が一方的にしゃべる形になった感じだった。個人で参加している人は操作が大変そうだった
- ・ 初めての Zoom での参加、とても良かった。特に子育て世代には、会場までの往復時間の節約にもなり受講しやすいと思った
- ・ Zoom 参加だったが、演習問題のときに繋がるまでに時間を要した。会場の音声のハウリングがすごかった
- ・ Web の使い方ができていない人の対応がどうなっているのか気になった。自分自身は Zoom を使用しホストになったことも何度もあるので大丈夫だが、事務局の方で常に画面を見てミュートにするなど対応してほしい。慣れていない人の音声流れて迷惑なところもあった。しかしとても勉強になり、また会場に行く時間短縮にもなってよかった
- ・ 初めてのことで緊張したが、特に通信障害等もなく快適に講義を受けられた。家庭の都合や開催地の問題で今まで受けられなかった研修や講義も、Web 講義になれば受けられる機会が増えてよいと思った
- ・ ペアワークがうまくできていないところがあったが、講演はとても良かった
- ・ 講師の方のお話のときはよかったが、ペアワークは難しいと思った
- ・ ペアワークで相手の方のスピーカーの調子が悪かったので、ワークにならなかったのが残念だった。他は問題なく快適だった
- ・ とても有意義な時間となった。参加して良かった
- ・ 興味深い講演で、今後の看護に生かしていきたい
- ・ とても良かった
- ・ 会場まで行かなくて良いので良かった
- ・ 楽しかった

- ・会場まで行く時間を省けるのはよいと思った。画面でスライドを見れるのが見やすいし、説明の声も聞き取りやすかった。ブレイクアウトルームで講師の方の声が聞こえなくなったとき、相手の方がなかなかミュート off できず、話せないまま最初のペアワークの時間が終わってしまった
- ・不馴れなこともあり、ワークが上手く行かなかったのが残念だった
- ・会場に行かなくていいのは参加はしやすいと思う。途中で映像や音声トラブルがあり聞けないこともあった
- ・初めてのことだったが、良かった
- ・初めて Zoom による研修を受講した。無事終了してよかった
- ・Web 研修は初めてだったが、会場参加と変わりなかったと思う
- ・Web 開催、不安だったが、普通の研修のように参加できた
- ・初めての体験だったので不安だったが、参加してみると意外に会場で聞くのと変わらないと実感した
- ・Zoom で参加させていただいたが、私にとってはメリットしかない。育児をしながら短時間勤務制度を利用して働いているので、会場まで出向かなくてもいつもの職場や自宅で研修に参加できることはとても効率がよいと感じた。以前のように集団で研修を受けることができるようになって、このような形で研修に参加できるようにしていただきたい。この度はありがとうございました
- ・Zoom での参加は初めてだった。事前に自分のパソコンマイクの設定ができておらず、ペアでのワークが出来なかったのが残念であり反省点。講師の方の音声はスムーズに音割れ等なく聞くことができた！ Web 開催だと自宅からでも参加でき、会場に行く時間が省けることと、他者との接触による感染のリスクがないというメリットがあるのでありがたいかった。今後もこのような Web 開催があればぜひ参加したい
- ・手軽に参加でき、通常の業務もできたのでよかった。1人で参加したが、野津先生の2時以降の研修はペアのスタッフを依頼した。そのため「参加」としなかったが、どのような影響を及ぼしたのかわからない
- ・参加人数の制限がなく、会場まで足を運ばなくても研修参加できたことで、有効な時間を過ごす事ができた。Zoom でペアワークを実施した方へ最後に挨拶ができればよかった。研修を開催していただきありがとうございました
- ・初めて Web で参加したので不安だったが、丁寧な説明があったので無事に参加できた。子育て中であり、今後も自宅で受講できるなら参加しやすいなと思った
- ・感染対策を考えると、ネットを繋げる環境があれば、移動しなくてもどこでもできるのでよい方法だと思う
- ・特に困ることはなかった。感染のことなど気にすることなく受講できるため、よかった
- ・良かったと思う。雑音が少し気になった。マイクのエコーで聞こえづらかった
- ・音声聞き取りにくい（特に会場内のマイク）
- ・音声聞き取りにくいところがあった (3) ・少し声が小さかった
- ・少し聴き取りにくいと感じる所もあったが、満足できる研究会だった
- ・会場だったので、いつもの研修とさほどのかわりはなかった
- ・Zoom にて初めてだったが、会場では機材トラブルなどなく順調に行えてよかった

- ・家で研修を受け続ける自信はない。途中、子供も帰宅してくるし。病院の一室を研修部屋として設けているのはいいと思った
- ・今回は会場に出向いて研修を受けさせていただいた。次回は Zoom で参加したい

5-②. Web 開催はどこで参加されましたか。

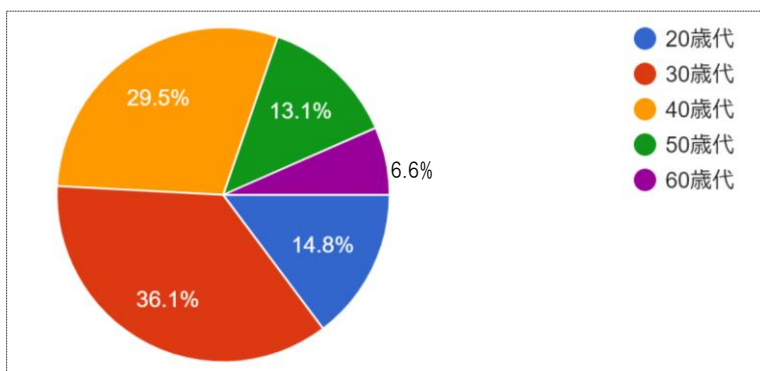
- a. 受講会場（岡山国際交流センター）（16名）
- b. 病院（勤務先）（29名）
- c. 自宅（16名）

6. 今回の研究会に参加した動機はどれですか？

- a. 病院から「行きなさい」と言われて。（31名）
- b. 自分から積極的に出席した。（29名）
- c. その他（1名）
 - ・学生の指導をしており、指導に生かせると感じたから

【年 齢】

- 20歳代（9）
- 30歳代（22）
- 40歳代（18）
- 50歳代（8）
- 60歳代（4）



【勤務年数】

- ～5年未満（5）
- 5年～10年未満（8）
- 10年～15年未満（15）
- 15年～20年未満（13）
- 20年～25年未満（8）
- 25年～30年未満（5）
- 30年～（7）

